

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

| | | | |
|-------------------------|--|--------------------------------|-------------------------------|
| | 記入日 平成 29 年 7 月 16 日 | | |
| 所属学部・研究科 | 教育学 研究科 博士課程後期 2 年次 (留学開始時点) | | |
| 留学先大学 | Osnabrück Universität (国名: ドイツ) | | |
| 所属学部・学科等名 | Erziehungswissenschaften (教育科学) | | |
| 在籍身分 | 交換留学生 | | |
| 留学期間 | 平成 28 年 09 月 16 日 ~ 平成 29 年 07 月 13 日 | | |
| 1. 渡航について | | | |
| ビザについて | ビザの種類: 学生ビザ | | |
| | ビザ申請先: 外国人局 (Ausländerbehörde) | | |
| | 取得方法, 提出書類: 外国人局へ予約後 (大学の方で手続きをしてくれた)、当日書類 (パスポート、入学許可証、寮の賃貸契約書、滞在費用負担誓約書、学生証、健康保険証、証明写真、100€) を提出し、後日指定日に受け取りに行った。 | | |
| | 手続きに要した日数: 約 1 ヶ月 | | |
| その他必要な事前手続き | 経済証明書 (英語あるいはドイツ語)、あるいは十分な額 (月々 740€ 以上) の奨学金を受給していることを証明する書類 (英語あるいはドイツ語) を準備。 | | |
| 出国年月日 | 平成 28 年 09 月 16 日 | | |
| 経路 | 広島→羽田→成田→イスタンブール→ミュンスターオスナブリュック | | |
| 現地での出迎え | <input type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無 | | |
| 到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容 | サマースクール期間中に約 1 週間 (観光や施設案内)、学期開始時に約 1 週間 (口座の開設や保険の加入 [日本で加入していても加入する必要あり (私の場合は月々 88€)]、住民登録やビザの取得など)。 | | |
| 帰国年月日 | 平成 29 年 07 月 13 日 | | |
| 経路 | ミュンスターオスナブリュック→イスタンブール→成田→羽田→広島 | | |
| 2. 留学経費について | | | |
| 所要経費 | 総額 | 184 万円 | |
| | 内訳 | 渡航費 | 約 15 万円 |
| | | 保険料 | 約 18 万円 |
| | | 教科書代 (学費) | 約 6 万円 |
| | | 宿舍費 | 約 20 万円 |
| | | 食費 | 約 30 万円 |
| | | その他 (研究費) (旅費) (交際費、生活費) | 約 30 万円 約 15 万円 約 50 万円 |
| 3. 授業について | | | |
| 2016 年 冬学期 | 10 月 18 日 ~ 2 月 18 日 | | |
| 2017 年 夏学期 | 4 月 3 日 ~ 7 月 8 日 | | |
| 年 学期 | 月 日 ~ 月 日 | | |

| | | |
|---|---|------|
| 掛けた場合 | <input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input checked="" type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 () | |
| 掛け金は | 年間 18 万円 補償額 死亡 円, 入院1日 円 その他 () | |
| 留学前後での予防接種の必要の有無 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | |
| 有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名 | | |
| 日常的な健康について不安が | <input checked="" type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった あった場合その理由: 先天的な緑内障を患っていたが、日本の医師に相談することで解消できた。またいつでもドイツの医者にかかるといふ安心感があった。 | |
| 留学先国の医療事情 (日本と比較して) | 自然治癒力に頼り気味。必要な風邪薬は持参すべき。私の場合はインフルエンザを患ったが、病院でリレンザやタミフル等は処方してもらえなかった。 | |
| 留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと | オスナブリュックでは水道水が飲める。冬は空気が乾燥する。 | |
| (3) 危険を感じた地域, 状況 | | |
| 特に危険を感じることはなかったが、道で知らない人に話しかけられることは多かった。特に日本と違い、オスナブリュックのホームレスは積極的にコミュニケーションをとってくるなあと感じた。 | | |
| (4) その他生活等に関して参考となる事項 | | |
| 必要な書類は何枚かコピーをとって持参すると良い。また大学の寮の Wi-Fi は弱いことが多いので、最寄りの電気屋でルーターを購入すると良い。スマホも SIM を購入すればすぐに使える。大学の Wi-Fi は eduroam が強力なので、広大のメディアセンターから事前に登録しておく。服や生活必需品はお金さえあればなんでも揃う。自転車の購入は ebay kleinanzeige をお薦めする現地の人が多かった (25~60€で調達できる)。 | | |
| 5. 帰国後の進路について | | |
| 卒業予定年月 | 平成 31 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 30 年 3 月) | |
| 卒業が遅れる見込みの場合, その理由 | <input type="checkbox"/> 4 年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input checked="" type="checkbox"/> その他 (具体的に 博士論文執筆のため) | |
| 現在の状況および今後の予定・進路等 | 現在博士論文を執筆中。高等教育機関への就職を望んでいる。 | |
| 就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫 | 教職実践演習のプラクティカムを前期に終わらせた。 | |
| 6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等 | | |
| 書籍, サイト名 | 詳細 (出版社, URL 等) | コメント |
| | | |
| | | |
| | | |
| 7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等) | | |
| 留学用の奨学金はたくさんあるので、可能な限り応募することをお勧めします。 | | |

学習の概要に関するレポート

私はドイツのニーダーザクセン州にある、オスナブリュック大学に留学しました。留学期間は、2016年10月～2017年7月です。オスナブリュック大学の場合、講義等の履修手段は学部によって異なります。私の専門の教育学部の場合、履修登録制度があります。各講義の情報や資料がまとまっているポータルサイトがあり、その内容を見るために講義のサイトに登録する必要がありますが、そこに登録したからといって成績がつくわけではありません。テストを受けたり、レポートを提出したり、学習内容を発表したりして、合格点に達すれば単位を取得することができます。

私の場合、HUSAを利用した交換留学でしたが、博士課程後期学生であったので、授業をたくさん履修するというはしませんでした。交換留学生在が基本的に履修するドイツ語授業の他は、ドイツで研究指導を受けた教授（Prof. Dr. disc. pol. Hans Rüdiger Müller）の講義とゼミナール（広島大学でいうところの演習）、及びコロキウム（広島大学でいうところのゼミ [特別研究]）に参加しました。以下にその経験を記載します。

【冬学期】

- ・ゼミナール（受講生約50名）について

ゼミナール（„Von der geisteswissenschaftlichen Pädagogik über die Kritische Erziehungswissenschaft zu einer Pädagogik als Kulturwissenschaft”）では、精神科学的教育学から批判的教育学、そして現代へとつながる「文化学としての教育学」までの、教育学にかかわる研究動向を学習しました。また演習の際には、モレンハウアー著『忘れられた連関』に関する発表を4人一組のグループで行いました。

- ・コロキウム（参加者約10名）について

コロキウム（„Forschungskolloquium”）は隔週程度の頻度で開催され、ゼミ生が個人研究発表を行いました。私は、ドイツと日本における新教育研究の動向をまとめ、そのなかで自身の研究関心を位置づけようとする発表を行いました。原稿作成に伴う困難と、1時間強設けていただいた質疑応答のふたつの困難を経験しました。質疑応答は録音し、ドイツ人の友人の力を借りてテキスト化しました。

【夏学期】

- ・講義（受講生約80名）について

講義（„Pädagogische Diskurs”）では、教育学（思想）史を学習しました。ルソー、ペスタロッチなどの教育思想を検討しつつ、それらの思想的発展としてモレンハウアーを位置づけ学習した点は、私の指導教官に独自のものではあったと思います。ほとんど毎回リードテキストが課題として出され、教育学の古典を読み、授業に望む必要がありました。また、グループ活動も盛んに導入されました。

- ・コロキウム（参加者約10名）について

冬学期同様に、研究発表を行いました。私の博士論文の構想を発表し、ドイツで学んだ研究方法を援用することの妥当性と問題点について議論を交わしました。



生活の概要に関するレポート

私はドイツのニーダーザクセン州にある、オスナブリュック大学に留学しました。留学期間は、2016年10月～2017年7月です。

【気候】

夏は涼しく冬はそこまで寒くなく、一年通して過ごしやすい気候です。空気が乾燥しているため化粧水や乳液があると重宝すると思います。天気は変わりやすく、朝晴れていても昼雨が降ることなどはざらにあるので、傘や防水の靴があると重宝します。

【交通事情】

ICE（ヨーロッパの新幹線）が止まるので、主要都市からのアクセスはとても便利です。学生証（注1）があればニーダーザクセン内ほとんどの都市に無料で行くことができますし、いくつかの都市では都市内交通も無料で利用できます。オスナブリュック市内のバス網はよく整備されており、基本的にバスだけでどこへでもいけます。起伏の少ない街で、自転車道も比較的整備されているので、自転車があると便利です。

【食事】

スーパーマーケットはいたるところにあり、加えて充実したアジアンショップも2軒あります。自炊をする際の食材に困ることはありません。どの寮もご飯つきではなく、食堂（注2）も基本的に昼のみの営業なので（Westerbergの食堂は金曜日を除く平日は9時まで営業しています）自炊ができない方は少し困るかもしれません。昼に食堂でしっかりご飯を食べて、夜はパンで済ますというドイツ人の伝統的な生活スタイルを取り入れてみるのもいいかもしれません。

【買い物】

家具、文房具、服、日用品、装飾品、殆どの必需品はオスナブリュック内で揃います。例えばH&MやIKEAなど、日本でも馴染みのあるお店もたくさんあります。

【携帯電話】

大学と大体の寮にはWi-Fiが飛んでいる（飛ばせる）ので、スマートフォンを買う必要はありませんでした。電話とSMSだけできるプリペイドの小さい携帯電話を買いました。長電話しなければ一回のチャージ（15ユーロ）で3カ月はもちます。スマートフォンを使いたい場合は、日本でSIM下駄を入手した上で、ドイツでSIMカードを買うか、こちらで新しく端末を買うことになります。安いものであれば4～50ユーロで買えるので、検討する価値はあるかもしれません。

1) 学生証（ゼマスター・チケット）について

学生証を提示することで受けることができるサービスがたくさんあります。その最たるものが、公共交通機関の割引です。オスナブリュック大学の学生証を提示することで、オスナブリュック市内のバスは乗り放題の上、DBもICEなどを除いて広範囲を無料で移動することができます。例えば、ハンブルクやブレーメン、ミュンスター等へも無料で移動することが可能です。

2) 大学食堂（メンザ）について

オスナブリュック大学のメンザ（複数ある）は、低価格で美味しい食事をとることができます。上述した学生証にお金をチャージすることで、手軽に支払いをすることも可能です。ウェブで“MensOS”と検索するとオスナブリュック大学の学食に関するアプリをダウンロードすることもできます。

